



温故知新

ちいろば会理事 富田 忠一

先日、ちいろば園のアドバイザー委員としてご協力いただいた、「宮崎隆太郎さん
を偲ぶ会」に参加しました。(昨年、10月に白血病でお亡くなりになりました。)

宮崎さんは長年、枚方で教師として「ともに生きる」教育に取り組み、養護学校
義務化以前の1971年から重度といわれる子どもたちを普通学校で受け入れ、「ともに学
ぶ」授業のあり方についても真摯な取り組みを続けてこられました。また、障害を
もつ子どもたちの卒業後の生活についても地域で同世代の人たちとかかわりながら
障害をもつ子どもたちが暮らせるための運動にも取り組まれました。障害をもつ子
どもの卒業後の進路について宮崎さんは次のように書かれています。『「障害者」にも
いろいろな思いや願いがあり、いろいろな生き方があるはずである。貧弱な生活体験
の中では、彼らも貧弱な生き方しか選べない。ぼくたちがいろいろな活動を試みる
ことで、その中に「障害者」も自然に参加してもらい、彼らの生活体験を豊かにして
いきたい。その体験の中から彼らが主体的に自分の生き方を見つけていくはずであ
る。』(子どもとその世界 第3号 p31 子どもと生活を考える会 1984年発行)

ちいろば園設立において、私たちは宮崎さんのこのような想いに強く共感し、
影響を受けながら障害をもつ人たちの活動の場づくりをめざしました。日中活動に
留まらず、余暇や親亡き後の問題にも躊躇なく取り組んだのは、まさに、「豊かな生活
体験」をとおして障害をもつ人たちの主体的な生き方を支えていきたいと考えたか
らです。

長い時間の経過の中で、障害をもつ子どもたちの教育は「特別支援教育」として、
障害をもつ人たちの活動の場は「障害福祉サービス」として街のあちこちに存在す
るようになりました。私たちの思い描いた“ふつう”ではない“とくべつ”な形で障害
をもつ人たちの権利として保障されるようになりました。ちいろば園も今日では、
「生活介護」「共同生活援助」などの障害福祉サービスの場として法律に定められた
極めて貧弱な活動に留まっています。

障害をもつ人たちを支える制度や仕組みなど何もなかった時代ではありますが、
宮崎さんの文章には当時の支援者の志の大きさや豊かさが感じとれます。

障害をもつ人たちの「豊かな生活体験」のためには、「ぼくたち(支援者集団)」が
いろいろな活動を試みることで、支援者集団に「貧弱な生活体験」し
かなければ「豊かな生活体験」を支援することなど期待できません。支援者集団がも
っといろいろな活動の試みを今一度始めてみましょう。障害をもつ人たちの主体的
な生き方に繋がることを信じて・・・。

「初体験を通じて…」

ちいろば会事務長 和田 泰子

今年2月、私は人生で初めて入院、手術をしました。
入院、手術と言っても病気ではなく、出産のためにこの人生初の体験をすることとなりました。
2008年に結婚してからも私の生活の中心にはちいろば園があり、子どもができることは想像もしておらず妊娠がわかったときには正直葛藤がありました。病院からは「高齢出産でリスクが高くなるから無理のないように」と言われ続けていたのですが、まず私が考えたことは仕事を休むことになると周りに迷惑を掛けてしまう、私が担ってきた仕事は誰にお願いできるだろうか等々。そして何よりも“職場復帰”への不安が一番大きかったです。入職してからこんなに長期間仕事を休むことがなかっただけに本当に不安になりました。自分の中では出産予定日が2月4日だったので1月末までは出勤できる、産後2ヶ月も経てば仕事に復帰できるから新年度には間に合うかなと妊娠生活を楽しむよりも仕事の予定ばかり考えていました。そんな私をお腹の中で一番身近に感じてくれていた我が子は、妊娠中から本当に親孝行で悪阻もなく体調万全で妊娠期間を過ごすことができました。
妊娠中には私にとってタイムリーな話題であるマタニティハラスメント問題がニュースで大きく取り上げられていて、もしも自分の身に同じようなことが起きたら…、もし、自分は早々に復帰したいと思っても戻る場所が無くなっていたらと考えてしまうこともありました。でも、出産後ちいろば園に顔を出すと長年付き合いのあるメンバーは「赤ちゃん生まれたん？今度連れてきてね、抱っこさせてね」と言ってくれたり、「和田さんは明日ちいろば来ますか？」と聞いてくれたりと私には戻れる場所があるということに喜びを感じました。
私は自分自身の仕事に向き合う姿勢が全て正しいとは思いませんが、ちいろば園は結婚や出産をしても仕事を続けることができる職場だと思います。もちろん仕事を続けるためには個人の頑張りだけでは到底無理なこともあり、家族等の協力や理解がないと難しいのも事実です。私も仕事と育児の両立で家族の協力や職場の理解に助けられています。たまたま、私の主人が比較的時間の調整が可能な仕事であることや、私の両親が近くに住んでいることで環境に恵まれているからだと思う人もいるかもしれませんが。これから結婚や出産を経験する人たちが私と同じような環境で子育てできるとは思いません。でも、仕事と育児の両立が難しいとしても「自分は～したいから～する」と自信を持って選択してほしいと強く願います。また、世間で言われるようなマタニティハラスメントが自分の職場では起こらないようにしたいという気持ちは出産を経験して感じることができました。
仕事と育児の両立は想像以上に負担に感じることも多くあるはずですが、ちいろば園に関わりながら子育てができることは私の財産です。今回の妊娠出産で多くの方々からお祝いの言葉を頂くことができたのもちいろば園と共に歩んでこられたからだと感謝の気持ちでいっぱいです。
今月で3ヶ月を迎えた子どもがもう少し大きくなりちいろば園に連れてくることができればメンバーにも私の子育てをお手伝いしてもらえればと思います。
そして子どもが人の気持ちを理解し、その気持ちに寄り添える人に成長してもらいたいと願っています。

知的障害をもつ人に対する『合理的配慮』について考えてみよう！⑤

ちいろば園 奥田陽子

今年5月1日より、利用者のみなさんの作業活動として温泉の受付窓口業務を三郷町の社会福祉協議会より委託していただくことになりました。老人福祉センターの窓口にて、脱衣場のロッカーのかぎの受け渡しや回数券の販売等を行ないます。まずは今までセンターの方がされていた一連の対応方法を教わり、工夫が必要な部分については改善策を模索しているところです。そのいくつかの例を紹介したいと思います。左下の写真（上段）は、ロッカーのかぎが入っているケースです。このケースは外側から中身が見えないため、引き出しが閉まっている状態では、かぎの有無が確認できません。その結果、お客さんが来られるたびに、何番のかぎがあるかなあ…と引き出しを開けて中身を確認しないといけません。



男 12 女 10

(支援者①) 「かぎを渡したら使用中ってわかるように、引き出しをちょっとだけ開けておくことにしよう！」

(Aさん) (引き出しを開ける。)

(支援者①) 「Aさんちょっと開けすぎやな～。半分ぐらいでええで～」

(Aさん) 「・・・。」

(支援者②) 「ちょっと開けるって、わかりにくいと思うなあ。それに、開いている引き出しの下の段は見えないし、みんな使いにくそうにしてるよ。」

(支援者①) 「たしかに・・・。じゃあ、中身が見えるケースに入れ替えてみよう！」 ※写真（中段）参照

次に、入浴券を受け取る場面です。例えば女性のお客さんにロッカー10番のかぎを渡したら、入浴券に「女10」と書くことになっています。知的障害をもつ人の中には文字の読み書きを苦手とする人もいます。少しでも「書く」作業を減らすことができればと思い、番号別にはんこを準備しました。最終的に男女それぞれ何名の方が利用されたかを集計する必要があるため、押したはんこを見て区別が付きやすいよう白と黒に分けています。男女でわざわざスタンプ台の色をわける必要がないので、作業もスムーズにいきます。

この業務をちいろば園でおこなう目的は、障害をもつ方々の社会参加の促進と、地域の方々に障害に対する理解を深めてもらうことです。苦手な部分を地域の方々に知ってもらおうと同時に、そこにどんな工夫や手助けがあれば暮らしやすくなるのかを発信していくことが必要だと思っています。

先日お客さんが回数券（1500円）を買いに来られました。お客さんから2000円を預かったAさんは、準備した計算表を見ておつりの計算をしていました。お客さんがおつりの欄を指差して「兄ちゃん、ここやで、ここ読んでみ～」と声をかけて下さいました。その言葉にAさんは「500円のお返しです！」と自信たっぷり！(^.^)！お客さんも「兄ちゃん、グッドや！」と。このやりとりを見ていると、Aさんにとって苦手を自信に換える合理的配慮とは、計算表という支援ツールだけでなく、お客さんのやさしい言葉がけもそのひとつだなあ、と感じました。

ねんどうまつほうじんけんしゅうほうこく
年度末法人研修の報告

そうだんしえんいんふくにしひろし
相談支援員 福西 宏之

3月に年度末法人研修を行いました。この研修は毎年開いており、事業毎に1年間取り組んできた活動についての報告や感想の発表をしています。現状ちいろば会は複数の事業を別々の場所で行なっており普段顔を合わす機会の少ない職員もいますので、全職員で法人全体の動きを共有する為の大切な研修と言えると思いますし、別の事業からの報告を聞く事で障害福祉についての視野を広げる事や障害者支援について様々な角度から検討する力を身につける事にも繋がっていると思います。

また富田施設長からの総括があり、その中で「支援の引き算」について教わりました。どういう事かという、まず知的障害者についての支援を考える際には本人の不得手としている部分に対して何らかの支援を行い、その中で本人自身の持つ力が向上する様に押し上げる事が大切ですが、その次の段階として徐々に支援量を減らしていく意識も大切だということです。確かにその意識を持たず特に問題がないからと同じ支援方法が続けていれば支援者は楽ですが、ただそれ以上に本人自身の能力が向上する事はありませんので、障害者がより主体的に豊かな生活を送る為には重要な事だと感じました。

現在私はななつぼしの相談員ですので直接的な支援に入る事はないのですが、研修を通じて感じた事をこれからの相談業務に生かしていけるように取り組んでいきたいと思っています。

しんにんけんしゅうう
新任研修を受けて

ちいろばえんおおにしりこ
園 大西 理子

4月1日、ちいろば園にて新任研修を受けました。ちいろば園の理念である「ともに生きる社会を創造する」。入職したての私には、まだまだこの理念を深く理解できていません。誰かから説明してもらって分かるものでもないと思います。これから働く中で、何度も何度も考えながら、この理念に寄り添い、自分自身の中で少しずつ理解できるよう努力したいと考えています。

昨年、ちいろば園が創立して25周年を迎えました。私は、先輩方が築き上げてきたこの場所で働けることを誇りに思います。まだまだ戸惑うことも多く、未熟ではあります。しかし、ちいろば園の一職員となった今、積極的に学ぶ姿勢を忘れず、たくさんの方のことを吸収し日々成長していきたいです。利用者の方が楽しむことはもちろん、自分自身も楽しみながら日々を過ごしていければと考えています。

ちいろば会職員リレー エッセー



～支援し えんをしていて疑問ぎ もんをかんじること～

ちいろば園えん 新宮由士しんぐうゆうじ

ちいろば会で支援者として従事しこの4月から5年目を迎えることになりました。この春、新しい職員も加わりました。そんな新しく入職した方々をみると私自身、入職した当時を思い出します。当初は、「なぜ、障害をもつ彼らが苦手としていることを求めるのか」という疑問がありました。というのも、ちいろば園で入職する前に他にもいくつかの施設の見学へ行ったのですが、ある通所施設の利用者Aさんは決まった部屋で一日を過ごしていました。食事とその部屋で食べ外へ出るのはトイレの時だけ。また、利用者Bさんは部屋にこもり一日テレビゲームだけをして過ごしていました。作業活動は参加できる人だけがしていました。その施設の職員さんは「できるだけ彼らが落ち着いて、安心して生活できるように彼らの意思を尊重している」と答えられました。私はそれを聞き納得していました。

ですが、ちいろば園は少し違いました。障害特性を理解した上で、利用者が苦手とすることにも、様々な工夫をして取り組むことが出来るよう支援していたのです。当時の私は、その必要性が十分理解できていませんでした。利用者が安心して落ち着ける環境の中で生活することがなにより重要なのではないかと思っていたからです。ただ、日々支援に携わる中で落ち着くことが出来る環境を整えることは重要なことですが、それだけではいけないということに気付きました。作業、創作、余暇活動を通して様々なことを経験することで、自身の役割を持つことや他者から必要とされること、新しく出来ることが増えること、様々な人と関わりを持つことなど、一人で安全な部屋にいただけでは得ることが出来ないたくさんの物があることがわかったからです。喜び、楽しみもあれば、しんどい気持ちになることや不安になることもあるでしょう。ですが、それこそが「生きる」ということなのではないか。様々な経験をし、その選択肢の中から選ぶことこそが、「意志」と呼べるのではないかと感じるようになったのです。

現在も支援の中で疑問に感じることに、迷うことは日々ありますが、そんな時はちいろば会の理念である「ともに生きる社会」を念頭に掲げ職員一同支援に当たりたいと思います。

次は、ちいろば園胡内さんにバトンを渡したいと思います。

よろしくお願いします。

テーマは引き続き「支援をしていて疑問ぎ もんをかんじること」です。

「サービス等利用計画」の作成と質の向上を目指して

2015年4月より、障害福祉サービスの支給決定にあたっては「サービス等利用計画（障害児支援利用計画）案」の提出が義務付けられることにあたり、西和7町障害者等支援協議会では、サービス等利用計画による計画相談の推進とその質の向上を目的として昨年度より指定特定相談支援事業所の相談員の方に呼びかけ勉強会を実施しています。

第1回目は計画書の記入の仕方や実際に相談員の方が困っていることなどを出し合い、第2回目には、1つのケースについて2つの計画書を見比べどちが良計画なのか…と評価を行いました。

次回第3回は2015年6月12日に行う予定にしています。堅苦しい場ではなくざくばらんに意見交換を行い、相談員が1人で悩みを抱え込むことのないように継続していければと思っています。

参加希望の相談員の方は下記までご連絡お待ちしております。

問い合わせ先：生活支援センターななつぼし・大前

TEL 0745-72-2390

が あんない ブルーベリー狩りのご案内

私達が一年かけて育ててきたブルーベリーが7月頃収穫の時期を迎えます！

今年も、下記のとおりブルーベリー狩りを実施します♪

夏の思い出作りに当園のブルーベリー狩りを是非ご体験ください！



○実施期間

7月中旬～8月中旬

10時00～11時30分（受付及び事前説明30分+食べ放題1時間）

○料金： 500円（中学生以上）/ 400円（3才～小学6年生）/ 2才以下無料

*持ち帰りパック別途料金（100g 300円）

○申込： 各日 先着15名まで（要予約 当日9時まで受付可）

*ブルーベリーの状態によっては日程の変更や中止をお願いする場合がございます。ご了承ください。また、雨天時の際、実施するかは応相談となります。

*ブルーベリー狩りの後に、喫茶でランチはいかがでしょう？期間限定の当園で今年取れたブルーベリーを使用した特別メニューをご用意しています。

【ご予約・お問合せ】は、 TEL 0745-72-1923（担当 辰己浩規、宮本まで）

じょうえいかい

かいさい

上映会&シンポジウム開催!



レッツゴー、ロボー!

会場: ちいろば園 

奈良県生駒郡三郷町勢野北5-6-14

でんわ 0745-72-1923

【刑法39条】
1. 心神喪失者の行為は、罰しない。
2. 心神耗弱者の行為は、その刑を減輕する。

かつ にち と
6月13日(土) 13:00 ~ 16:00

かい じょう じょうえいかいし
開 場 12:30 上映開始 13:00

かんしょうりょうきん えん ちゃ かしつき
鑑 賞 料 金 500円 (お茶、お菓子付)

やく じかん えいがかんしょう きゅうけい
約2時間の映画鑑賞のあと、休憩をはさんでシンポ
ジウムをおこないます。ご来場お待ちしております!

押田 大 押田清剛 山田キヌヲ 斎藤 歩 内田春菊 ベンガル 品川 徹

監督・脚本: 押田興将 プロデューサー: 大西弘幸 野々川千恵子 今村雄介 音楽: 大友良英 撮影: 松根広隆 録音: 今村寿志
編集: 今井 剛 整音: 松本昇和 音響効果: 伊藤瑞樹 制作: 千葉文香 美術: 柳橋啓子 坂田未希子 由田志穂 助監督: 松原隆二
スチール: 田中良子 制作デスク: 岡田直子 主題歌: 「サンキュー窃盗団のテーマ」 制作支援: 川崎市アートセンター
製作: サンキューキネマ団 配給: オフィス・シロウズ ©2011 サンキューキネマ団 <http://39thankyou.com/>


39
サンキュー せつとうだん
窃盗団

※当日、ちいろば園～王寺駅北噴水前間のバス運行をいたします。座席に限りがありますので
ご利用の方はちいろば園までお問い合わせください。

(王寺駅北噴水前 12:20発 ・ 帰りは終了後ちいろば園より発車予定)

※託児をご希望の方は5月末までにお知らせください。

☆月々（2015年2月1日～2015年3月31日）

安部ひとみ(2.3)、井戸上聡・侑子(2.3)、植村葉子(2.3)、大西眞規子(2.3)、小澤千恵子(2.3)、
小野寺彩子(2)、岡本啓子(2.3)、木ノ脇廣子(2.3)、木村和子(2.3)、五道知典(1～3)、篠原範子(2.3)、
諏訪英子(3)、高見敏雄・まり子(12～3)、高倉常子(1.2)、高谷三郎(2.3)、田中廣子(2.3)、
田中伸一・真紀子(2.3)、筒井早苗(2.3)、塚原一典(2)、塚本智恵子(12～3)、中園大三郎(2.3)、
中村康子(1～3)、中村由美子(12～3)、永井雅子(2.3)、永田清子(2.3)、新居サツキ(2.3)、西浜櫛和(2.3)、
畠中康子(8-11)、馬場隆昭(2.3)、原見静江(1.2)、備後直子(2.3)、福田容子(2.3)、
藤澤信弘・ゆき子(6～3)、本圓喜代美(1～3)、松村上子(2.3)、牧村スマ子(2.3)、松藤みどり(3)、
松藤ゆずり(1～3)、本岡信光・真(2.3)、山内イネコ(2.3)、山内敦子(2.3)、山川登(2.3)、保木かをる(2.3)、
吉田和子(12～2)、吉田幸子(2.3)、田口菜都美・康介(2.3)、川本都空(2.3)、孝子かえで(2.3)、
孝子もみじ(2.3)、吉兼ゆい(1.2)、畦地しゅうすけ(2.3)、奥田しずる(2.3)、中村ここみ(2.3)、
深澤悠介(2.3)、長尾菜美(2.3)、兼平水希(3)、富田忠一・直美(2.3)、和田泰子(2.3)、米田守(2.3)、
橋本勝寿(2.3)、黒川正通(2.3)、木村朋子(2.3)、信田裕香(2.3)、森川佳紀(2.3)、新谷貴雄(2.3)、
木下好司(2.3)、小川あゆみ(2.3)、田中謙輔(2.3)、阿波宏晃(2.3)、原雅子(2.3)、斉藤総一郎(2.3)、
井原由夏(2.3)、谷野裕悟(2.3)、石原慎也(2.3)、西村周也(2.3)、西田久美子(2.3)、藤原小百合(2.3)、
梶原拓馬(2.3)、辰巳普宣(2.3)、梅野玲子(2.3)、藤本千絵(2.3)、長尾良子(2.3)、松本敬子(2.3)、
小倉奈々(2.3)、坂本友希(2.3)、中森未来(2.3)、竹下由里子(2.3)、濱野由利子(2.3)、吉田陽亮(2.3)、
吉村公嘉(2.3)、東岡慎也(2.3)、舩井裕史(2.3)、大谷龍樹(2.3)、高見佳代子(2.3)、岩本咲人(2.3)、
村上智子(2.3)、吉井紗英(2.3)、西村昭彦(1～3)、山田援(2.3)、吉岡佳菜(2.3)、坂口ゆうすけ(2.3)、
辰己真奈美(2.3)、宮本道(2.3)

☆一括（2015年2月1日～2015年3月31日）

阪口寿久、西大和教会 ぶどうの木の会、恵愛保育所、高の原教会、大阪聖和教会、浜 恵介、
奈良教会、前田善唯

以上 敬称は略させていただきます

二〇〇〇年十二月十二日 第三種郵便承認 毎月（一・二・三・四・五・六・七・八の日）発行

KSKS ちいろばだより

編集人／ちいろば会後援会

連絡先／奈良県生駒郡三郷町勢野北5－6－14

発行人／関西障害者定期刊行物協会

年6回 頒価 50円

TEL：0745-72-1923 FAX：0745-31-5760

大阪市天王寺区真田山町2－2 東興ビル4F